

領域4 インフォーマルミーティング議事録

2017年秋季大会（岩手大学上田キャンパス）

2017年9月22日 17:00～18:00 岩手大学 C10 会場（書記：鎌田）

領域代表：小林 研介（阪大理）

領域副代表：大槻 東巳（上智大理工）

運営委員：

（2016年10月 - 2017年9月）

菅原 克明（東北大），山影 相（名大理），豊田 雅之（東工大理）

（2017年4月 - 2018年3月）

鎌田 大（理研），挾間 優治（東大物性研），中村 秀司（産総研）

（2017年10月 - 2018年9月）

秋山 了太（東大理），木崎 栄年（阪大院工），相馬 清吾（東北大WPI）

次期運営委員：

（2018年4月 - 2019年3月）

木山 治樹（阪大産研），松尾 貞茂（東大工），小林 嵩（東北大理）

1. 報告事項

1-1. プログラム小委員会・領域委員会報告

2018年の年次大会より非会員一般の参加登録費を改定し、事前15,000円、当日17,000円とする方針であることが報告された（現行は事前7,500円、当日8,000円）。

1-2. シンポジウム、招待講演

領域4主催のシンポジウムは1件、共催シンポジウムは1件、チュートリアル講演は主催1件だった。領域4主催シンポジウムは、採択後に、領域6からの「分野外の研究者に対して可能な限り誤解を生じさせないため」とのご要望により、当初の「トポロジカル超伝導物質・超流動ヘリウム研究の最前線」から題目を変更。チュートリアル講演は、当初30分の予定であったが、領域会議において時間延長を検討するよう要請され、45分に変更。

2018年春より、多額の予算を得ている研究コンソーシアム（例えば、新学術領域など）が自ら企画して行う「共催シンポジウム」制度が導入される。

http://www.ips.or.jp/activities/meetings/joint_symposium/

1-3. 日本物理学会学生優秀発表賞

当初、物理学会理事会は、2018年の年次大会からの授賞開始を目指していたが、様々な意見があり、開始を遅らせることとなった。早くとも2018年秋の分科会からの実施となる。具体的な実施要項については審議事項とする。

1-4. 領域 4 の名称

他の領域の表記と統一するため、領域 4 の名称の日本語表記を下記のように変更。英語表記は変更なし。

「半導体、メゾスコピック系・量子輸送」→「半導体、メゾスコピック系、量子輸送」

1-5. 若手奨励賞

今回の応募者数は 12 名（理論 6 名、実験 6 名）で現在審議中。来年以降も多くの方の応募を促す（H26 年 6 名、H27 年 8 名、H28 年 12 名）。

2. 審議事項

2-1. 次期領域代表、副代表の決定

次期代表：大槻 東巳（上智大理工）、次期副代表：藤澤 利正（東工大理）

2-2. 新運営委員の紹介、次期運営委員の決定

新委員：秋山了太（東大理）、木崎栄年（阪大院工）、相馬清吾（東北大 WPI）

次期委員候補について、以下の 3 名が推薦され承認された

木山治樹（阪大産研）、松尾貞茂（東大工）、小林嵩（東北大理）

2-3. プログラム編成

2-3-1. 今回の編成作業で気づいた点の確認、反省

一部合同セッションのカバーシートにおいて、対象の講演の講演番号を明記する。

2-3-2. 他領域との合同セッションについて

トポロジカルに関する投稿が多く、トポロジカル担当委員の負担が大きいため、他の運営委員はその点に配慮し、他でカバーするようにする。

2-3-3. キーワード

今回、「NEMS・MEMS」「シリセン」をキーワードとする講演者数が 0 だった。ただし、前回では発表があったため、これらのキーワードは廃止しない。

2-4. 年次大会のシンポジウム・企画公演等

中村委員より、シンポジウム案「量子テクノロジーによる計測技術の最前線」について紹介され、この内容で提案することが承認された。講演候補者 6 名中 2 名の内諾を得ており、IM 後に他の候補者に依頼する予定。

相馬委員より、新学術領域研究「トポロジーが紡ぐ物質科学のフロンティア」（代表：川上則雄先生）で共催シンポジウムの提案を予定しているとの報告があった。

今回のチュートリアル講演が盛況だったので、次回も企画できるよう検討する。

2-5. 領域4の新メーリングリストの利用状況と今後の予定

現在でも旧メーリングリストへの投稿があるため、メーリングリストの移行についてのアナウンスを再度旧メーリングリストに流す。また、領域4ホームページ記載のメールアドレスを新しいものに変更する。

現在の慶應大サーバーを10/1以降に停止予定。小林領域代表からサーバー管理者の慶應大・内山先生に連絡をする。

2-6. 日本物理学会学生優秀発表賞

学生の投稿のインセンティブとなり講演数増加が期待できるため、領域4でも学生優秀発表賞を実施することが承認された。

2-6-1. 審査方法

理事会は、発表論文を評価の主体とすることは認めておらず、あくまでも、学会での発表をベースにする必要がある。この場合、複数回の学会をまたぐことは技術的に困難。したがって、領域2の審査方法をベースにした、下記の審査方法が提案された。

- ・応募者は、一般講演申込時に学生優秀発表賞への応募の旨を記載する
- ・応募者は、審査用紙を事前にダウンロードし、必要事項を記入の上、当日の発表時に座長に手渡す
- ・座長が一次審査、その後、数名の審査委員で一次審査の結果を基に、学术论文等を加味して二次審査
- ・領域4の審査委員から推薦された候補者について、本部の理事会において授賞を審議・承認

2-6-2. 検討事項

- ・座長が欠席の場合はどうするか
- ・座長には事前に知らせておくべきか、知らせる場合、どのように連絡するか
- ・合同セッションの場合はどうするか
- ・応募者の共著者が座長とならないようにする必要がある（通常、一般講演登壇者の共著者が座長となることはない）
- ・受賞可能回数

2-6-3. 今後の予定

小林領域代表、都倉前領域代表を中心に具体的な実施要項を検討し、次のIMで承認の可否を問う予定